

公開実用 昭和51-103507



(1,500円)

実用新案登録願

昭和50年2月15日

特許庁長官 斎藤 英雄

1. 考案の名称 足掛杆のブラケット

2. 考案者

住所 実用新案登録出願人に同じ
氏名

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都千代田区和泉町ノ番地の8
氏名 熊木 泰利

4. 代理人

住所 東京都千代田区岩本町3丁目3番6号
氏名 共栄ビル内 電話東京(866)1714
(4574) 弁理士 大賀 賢二

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1	万式
(2) 図面	1	審査
(3) 願書副本	1	通
(4) 委任状	1	通
(5) 出願審査請求書	/	通

万式
審査

東京

特許庁

2.17

出願第二課
深井

50 020906



明 細 書

1. 考案の名称 足掛杆のブラケット
2. 実用新案登録請求の範囲

足掛杆を嵌合支架する受金本体に、所要長さの腕杆を前部に、脚杆を下部に互に直角に接続し、腕杆と脚杆との各他端に、取付用フランジを接続した足掛杆のブラケットに於いて、腕杆と脚杆とを夫々同径のパイプを以て構成すると共に、腕杆の基端は受金本体に設けた接手に嵌合させてビス止めし、一方^{脚杆}腕杆の基端は接手に嵌合接着、又は^{接着}接着して受金本体と一体化し、腕杆及び脚杆には夫々他端開口より外径が腕杆及び脚杆の内径より少しく小径の棒型ゴム鬼を前後端に座金を当て差込み、続いて取付用フランジに設けた接手を嵌合した後、フランジの底面開口部に皿状座金を当て座金の中心に設けた開孔より捻子を差込み、ゴム鬼の中心を貫通させて前端の座金に螺合させ、ゴム鬼を圧縮して拡張させ、以てフランジを夫々腕杆及び脚杆端に固く^{接着}接着させた構造。

3. 考案の詳細な説明

- 1.

公開実用 昭和51-103507



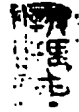
本案は、椅子に腰掛けた際、足を掛ける足掛杆のブラケットに係り、取付の際前後の間隔及び高低を簡単に調節することができると共に、同一型で左端及び右端の何れにも使用できることを目的としてなされたものである。

従来使用されているブラケットは、腕杆は小パイプで構成し、脚杆は太パイプで構成されているから腕杆は脚杆に転用できず、これがため左端用のものを右端に利用できない不便がある、又腕杆及び脚杆と受金本体とは、鑑着一体化されているから、分離することができず、これがため収蔵運搬時嵩張り、よつて取扱い上不便がある、更に又腕杆と脚杆端の取付用フランジは、接手を夫々杆端内に差込み、杆端に近く設けたねじ孔を通しビスをねじ込み、接手に固く接着し、以て腕杆及び脚杆にフランジを取付けるようにしているから、取付作業現場に於いて腕杆及び脚杆の長さを簡単に短縮調節することは困難であり、これがため予め必要とする腕杆の長さ、並に脚杆の長さを計りて切断し、然る後フランジを腕杆や脚杆に取付け

なければならぬ不便がある。

本案は、このような従来のブラケットの不便を除くため、腕杆(1)と脚杆(2)とは同径の剛管パイプを以て構成し、且つ腕杆又は脚杆の基端と受金本体(3)に設けた接手(4)との接続は、二者の内一方は鑲着又は鉚着(5)とし、他の一方は、着脱可能にビス止(6)となし、又腕杆(1)及び脚杆(2)の他端に取付けるフランジ(7)(8)は、フランジの接手(9)(10)を杆端より内方に差込むに先立ち、腕杆及び脚杆内に杆内の内径より少しく小径の短かい棒型ゴム鬼(11)(12)を夫々前後端面に座金(13)(14)を当て差込み、然る後フランジの接手(9)(10)を差込み、次にフランジの底面開孔(15)(16)に皿状の座金(17)(18)を当てこの座金の中心に穿設した小孔(19)(20)より捻子(21)を差込み、座金(14)の透孔(22)とゴム鬼の中心長手方向に穿設した透孔とを通し、座金(13)の中心に設けたねじ孔にねじ込み、捻子(21)を緊締することによりゴム鬼(11)(12)を圧縮拡張させて腕杆及び脚杆の内壁面に圧着させ、フランジ(7)(8)を腕杆及び脚杆の端面に固く接着させるようにしたのである。

公開実用 昭和51-103507



尚符号(23)は足掛杆である。

上記のように本案では腕杆(1)と、脚杆(2)とを同径のパイプで構成しているから、何れを脚杆に、又腕杆にしても差支えなく、従つて左端と右端とのブラケットを従来のように区別して作る必要がなく、同一型のもので左右何れの端にも利用できる便がある、又腕杆又は脚杆の内、何れか一方の基端は受金本体に着脱自由となしているから、製作して箱詰したり、又持ち運ぶ場合等、一方の杆を受金本体から分離すれば全体の体積は縮小され嵩張らないので収蔵運搬に極めて便利である、更に又フランジの取付は前記のように腕杆及び脚杆内に嵌合したゴム鬼(11)(12)を捻子(21)の緊締によつて、正縮拡張させて、杆内の壁面に密着させ、以て杆端に固着するようにしたから、フランジの接続は安定し、殊に捻子(21)を緩めると簡単にフランジとゴム鬼は取出せるから、腕杆又は脚杆の長さを短かくする必要がある場合は、杆端を所望の個所から切断すればよく、その作業は簡単であるから取付現場の状態に応じ現場で容易に腕杆や脚杆の長さ



を調節することができる便利さもあり、従来のブラケットに比し取付現場での作業性が極めてよい効果がある。

4. 図面の簡単な説明

図面は本案の実施例を示すものにして、第1図は断面図、第2図は分解斜視図、第3図は本案の実施の態様を示す斜視図である。

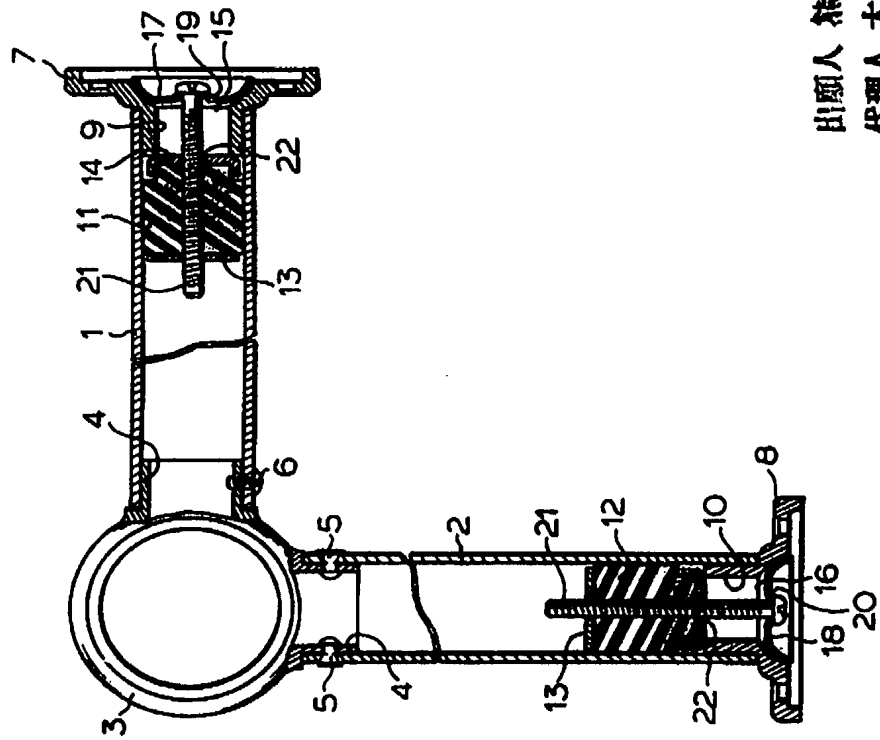
(1) . . . 腕杆、(2) . . . 脚杆、(3) . . . 受金本体、(4) . . . 接手、(5) . . . 鋲着、(6) . . . ビス止、(7)(8) . . . フランジ、(9)(10) . . . 接手、(11)(12) . . . 棒型ゴム鬼、(13)(14) . . . 座金、(15)(16) . . . 底面開孔、(17)(18) . . . 座金、(19)(20) . . . 小孔、(21) . . . 捻子、(22) . . . 透孔、(23) . . . 足掛杆。

出願人 熊 木 泰 利

同
代理人 大 賀 貫 二

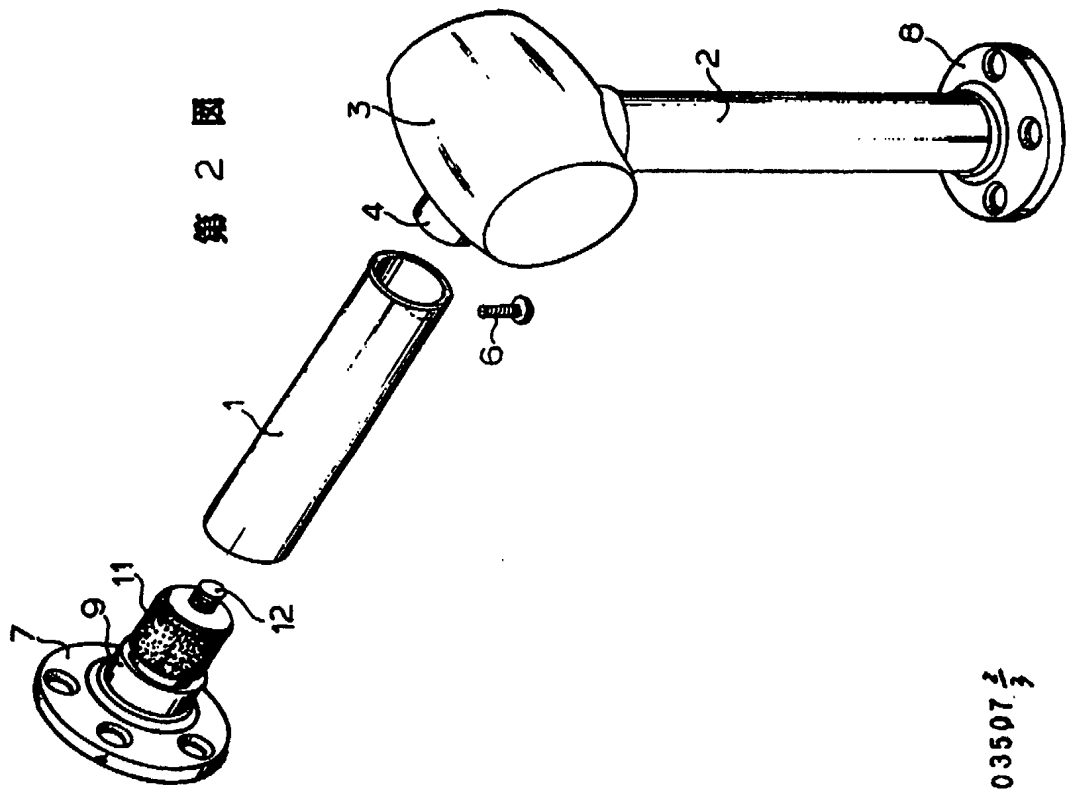
同 増 田 政 義

第 1 図



出願人 株式会社
代理人 大賀 貢二

103507 $\frac{1}{3}$

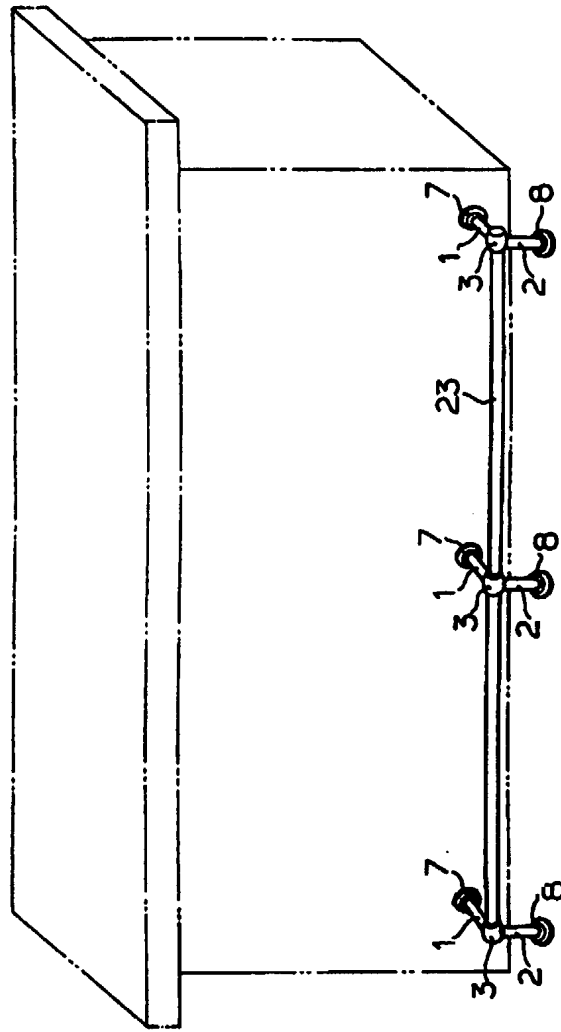


第 2 図

出願人 熊木 泰利
代理人 大賀 實二

103507 2/3

第 3 図



103507 2/3

出願人 熊木泰利
代理人 大賀貫二

公開実用 昭和51-103507

7

6、前記以外の代理人

代理人
印

住 所 東京都千代田区岩本町3丁目3番6号
共栄ビル 電話東京(866)1714番

氏 名 (6999) 弁理士 増 田 政 義

